

大須賀一雄 武蔵野スケッチ物語

吉祥寺駅
北口にて

no.69

見慣れた風景も、絵になるとちょっと違う趣が出てきます。

そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。



この作品は、吉祥寺駅北口の東側で、北を向いて描いたものである。夏の暑さには慣れている私だが、目の前を行き交う自動車には、しばしば視界を遮られ閉口した。だが、なんとか日暮れ前に絵を仕上げるのができ、良かったと思う。

ところで、これまであまり関心がなかった数学に、興味を持つようになってきた。そこで、最近読んだ数学の本で、面白い数字を知ったので紹介したい。

それは、フェニックス数と名付けられた142857という数字である。この数に、2から6までの数字を掛けてみると、順序こそ異なるが、全ての答えが142857の数字で構成される。ところが、7を掛けた途端、なんと全ての数字が9になってしまうのだ。とても不思議な感じのする数字なので、皆さんもぜひお手元の計算機で、試してみたいかがでしょうか。

(絵と文…大須賀一雄)

Profile

大須賀一雄
(おおすか かずお)

水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』（日貿出版社）、『スケッチお手本帖』（素朴社）、『透明水彩の世界・ヨーロッパ』および『緑』（旅もようスケッチ会）ほか。現在、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も30回を超える。